

令和6年度 第2回朝来市部活動在り方検討委員会 記録要旨

日時 令和6年10月17日（木）

13：30～15：45

場所 朝来市和田山生涯学習センター

1 開会

2 あいさつ（教育長）

3 確認事項

- ・第1回委員会議事概要について
- ・広報、周知について

4 報告 アンケート結果報告（以下、箇条書きは、委員からの御意見）

（1）保護者の声を聴く（事務局より） ※事務局資料参照

- ・保護者の意見として、仲間と出会って友達のつながりとか人間関係をつくっていくのは子どもの成長につながっていくと思うので、それを期待してるところがある。
- ・地域移行をして、完全に学校から切り離してしまうと、スポーツや文化・芸術活動に一步が踏み込みにくい生徒がいるのではないかと思います。だから小学校のクラブ活動的な感じで、週1～2回でもいいので、縦割りのようにスポーツを経験できる活動があるといいと思う。そういう活動的なことを経験できると、ワンクッション置いて、次に参加しやすい感じになるのではないかな。
- ・地域移行にあたって、アンケートにもあったように地域の人で信頼できる人になっていただけるか、少し不安があるということが出ていた。
- ・クラブの在り方として、多様なクラブの可能性も大事だという意見があった。実現が難しいかもしれないが、レベルを3段階ぐらいに分けてプログラムとして、チャレンジや楽しむみたいなのを分けてやっていくことで、いろんな子どもたちが、いろんな活動に参加してもらえる機会ができたらいいいという意見が出た。
- ・一番初めに出てたのは、送迎の問題である。夕方の忙しい時間に、保護者が子どもを送ることが大変ではないかという意見があった。
- ・社会人でスポーツをしておられるチームがある地域だったら、そこに子どもたちが入って、一定時間子どもたちと一緒に大人の方も頑張ってもらえる。
- ・子どもたちがやりたいことを自分で選んで、活動の選択肢を、学校だけでなく地域がそういうものをきちっと保障していくという時代になってるということを感じた。例えば、学校の部活動だったら、ずっとその部活動だが、地域移行した先や地域にある団体を考えたら、その子がその部活動だけではなくて、曜日によって、別の球技のチームに参加するという選択もできるという話があった。

- ・今の部活動の中には、こんな選手になりたいといって、上をめざして大会にどんどん出場したいという方もいれば、別に選手ならなくても、本当に楽しんでできればいいんだってという方もいると思う。地域の中にいろんな受け皿ができていけば、子どもたちが自分で選んでそこに入っていけばいいと思う。

(2) 子どもの声を聴く（事務局より）※事務局資料参照

- ・このアンケートに出ているように、今の時代を反映して、子どもたちの忙しさが現れていると感じた。活動日数や活動時間を選べる、日にちも週3日がいいという結果からみて、子どもたちが忙しくて、部活に全力で楽しんでいる子どもたちにとっては貴重な時間ではあるが、そればかりではいけないというか、例えば塾に行かないといけない子どももいるし、子どもによったら、家の手伝いをしないといけない子どももいると思う。さらに、ほっとする部活動以外の学級の友達とか他の友達とゆっくり話をするなど、部活以外の時間を大事にしたいというのが、今の子どもたちの様子だということを少し感じた。
- ・地域の人たちと一緒に活動するということになると、それなりに自分の時間を選び、活用していきたいというのが、この子どもたちの声かと思う。先ほど出たように、基本はスポーツでも、子どもたちが好きになるという、スポーツ嫌いにならない子どもたちをどう育てるかということを地域で指導していくとか、地域で支えるというとても大事なところと感じるので、それをいかにするかということも、この子どもたちの思いを大事にしながら取り組んでいかないといけない、ということを感じた。
- ・中学生の子どもたちだが、時間も取れない、忙しいという意見が出ていた。そういう中で、活動日数・活動時間を選べるということは、日本ではなかなかないということで、お聞きすると平日に4日で土日に1日で、週5日ということだが、強制されてるイメージがなくなるといけないという声もあった。小学生については、友達づくりを目的としている子が多いが、小学生の子たちの意見を見ると、毎日活動することは嫌だとか、短時間でしたいとか、そういう思いを持っていた。スポーツ・文化芸術活動の内容は、まだわからない児童も結構いるのではないかと、という意見が出ていた。いい活動をしたり、集中してしたりするには、一、二時間の短時間の方が集中できるのかというようなことがわかった。
- ・前から出ている「意識改革」というところは、必要ではないかと思った。子どもたちや大人にも、時間をとってアンケートをやってもらったので、まずこれに対する反応を市として返すべきだ。その際に、やはり分析をして、次の地域移行とかをどう考えていくかにも関わるが、これから学校から少し離れていく中で、どういうふうな活動を子どもたちが望むかということ、市としてのイメージを伝えていく。当然、部活動でやってきたいところは活かすと国も書いているが、そうでない強制のように映ってしまっているイメージを、新しい種目をたちあげることや、複数の活動も並列して行えることなどにしていく、そこに向かって変わっていくというイメージを示す必要があると感じた。今の部活動をスライドさせるイメージではないので、新しい姿、そこに向かって変わっていくということを、このデータとともに

に示す必要があるのかと思った。そういう意味では、皆さんおっしゃったように、生活の一コマとして文化活動、スポーツ活動をする。今までは生活の「全て」だった。中学生にとっては、極論すれば。でももうそうではなくて、もちろん「全て」にする子がいてもいいが、可能な限り、場として多様なものを設定して、選択肢と関わり方の多様性を担保していくことを、学校単位はできないけど、市として考える余地があると思った。最後に、人材の部分は、どこか送迎の部分というのが課題になるので、この辺は、今後具体的にどうするかということは、議論をしていく必要があると思う。

5 協議 1・2 「本市が進める形と方向性」

- ・永久に地域連携型があるわけではないということである。移行措置的なものとしてやって、もうあくまでも数年後には、地域移行の姿が望ましいというところで、令和8年度あるいは令和9年度に向けての動きをめざしていると捉えてほしい。
- ・それと協議2の方だが、まずは休日から移行に持って行って実際にやっていると、この平日に部活動の学校の活動が残って、休日は地域の活動になっていくという中で、別々に展開をしていくことも問題とか課題とか、あるいはその予算を含めてのことなので、自治体によっても、この決断がわかれている。とりあえず休日だけまずやると、平日は学校のところをそのままにしているという市町と、思い切って、平日休日両方行って、新しい枠組みを作った方がいいと決断する自治体もあって、はっきり今、県下でもわかれている。ちなみに阪神地区は一部の市を除いて、全て休日平日一体移行に踏み切る予定である。

6 まとめ

- ・一つの学校の今のような部活動は、子どもたちもわかってるが、一方で、絆とか、学級以外の仲間の繋がりを考えたら、今ではないような小学校のようなクラブ活動のようなものの可能性も学校として担保することは、併せて学校教育として必要なことかと考える。もう一つは生涯学習とか社会教育として、少なからず受益者負担で我々が参加して、小学校のときもそうですが、例えば何かのキャンプに行くときには、少なからず実費を払っているのと同じようなもので、それが純粋に営利企業のものなのか、どれぐらい公的観点で、市が支援することが妥当かを検討することも大切だと思う。しかし、営利企業も今回の趣旨の中で、入門編や体験教室みたいな形のことを、安価であるいは回数少ないけどやることは、あり得るので、その辺のすり合わせをして、民間にも打診していることもある。そういう意味では、どれぐらいのサービスを、今度は学校教育ではないサービスとして、市が生涯学習サービスとして提供するのかというのは、お金の問題、場所の問題も考えていく必要があるのではないか。

閉会